

百事興隆

興隆まんちり

梅長河より被地も名以後一年五節の恩似との
方より例よりとは大養ありて一被地成りて又より
例年九月中旬末廿一日河内の中は此れをより出舎
まより出之也被地多の被地一脂を入らんをい
て候出ずの中より多分食せしと云被地凡名角毒
入を別して自ら試み出さうれ入を糲味を食
の候と云

○或は相いさして毒入と被地は付く毒多し何れぬ
と云目の中も毒業を毒買し別禁するに恨怒の時或
恐甚まに被地より用ゆて一別禁の事少に急の被
多知り

无長河より被地をせり成

己十月河内の上被地の事実相須ありて一申救条と實子
仁恵斗の中より文智斗に女の事多し且中一二を
よ記す○因役之世伊勢吉原の時例より一徳大各より飲め使
者出す時大村氏家先使悉くみ被りてとす一唐人か
者の被地をアきれいふも一て一己世を也と存込用一出入
の所人より被せし一唐人被地は出入の役ある所人下賜路
しこれ一ふみあはく諸合を其の供とせり一草履を被る鞋
も其供人となり被地の門を入んとせり一門吏の若し唐人
品骨物天晴の男何とて供人と同走す一うもあや一まる
之と捕一戒め懐中と改名一不令あま不持せり一被る不の
者唐人を被り入ん一か令あて一持系ハ別禁之被を令ら
不持と云候りて別禁を犯を素心の卯のくせおかりと

主人より總奉行より不仕出をとりたるは法外な礼として支
持のまゝ交番の日成十八日のもめを之世に懐海さんの常例に
然るも以味ある付は是非ある事あるに死刑常法也との旨
を執事考あられ用い沙札せし上より何も不便のものに
借人の妻子は致さる近の款き後段より迷ふべきに水定のもの
そと使志より出せし主人も此世の一りの身重ひ使志を
さんより事ある事又使志を連し一もの考も以て来り取をけづ
急務曲事一付付ある入牢より及ちしむるに寛宥の事
とやうもの不旨ありといふも余ゆきしむすれたる方同
ゆる不取収不付評判ゆき一法外なるの取収以て其の禮と評
判ありんよりあるをささる後まのめふありありあんと部
衆の上にお日役々の考も主人を不仕出さる一通りの以味自
裁評よりその曲め、法人身と過之目とを足さるありあを大

村のあむ同子死刑とありんせし儀りのありつれを科
のりぬきしと之津まどと遠ひ不せをあれは長徳中此評判
とありし付もつと裁評に唐人の取収内は出入の町人家
来病氣おけ来り旅人を廢び日庸方の考も之をとり合ふ
供より連り候不念くもあらざる也仍急務に評判をたれ
ら事し終りも考科とに付急務に候事と吐きたる
連に候の日庸方えとにお礼不格別しは憐愍を以て不
中付子連何方にお礼を評判に事ある出入仕る事と追辨
にたし付初ら寛仁の礼を候は活命するもの恩はよ浴せし
に化すと云そ世に彼男家来救多し連樂興しそ之世氏
に使者を勤めあり候迄すしと云
一 長徳中今年に草院に松入津あり一乞へ大草院を乞ひ
上の水ありねと賣買に合ありしゆ、まはりの替り候なり

極る所合事んとのちありとめや依る所も大に堪ふ不
氣を上世上来辨り成の成り少く衰微の時帝成を上下
にその時のま行一職を云紙を切と紙氣のり何方と同じ
るがよ又少引之不の志一回ゆ成一紙をあまり白論る乃
職り終ふ所也との目送りあり是は箇并大如き以後終るあり
一事也

一 幕府の後松平初めを後松平因防を後をいりても常哉
の時中と度多を買束めりうと依る所ありをいふ右
代合を少の紙めやと云れ一付言價より上る付ハ出入
を上利を會々の紙とい下直に中とる付ハ先役は是也上
しを今更とりにくむは高り後其の同返を付付る
而物もよるまいたるに少のゆ少と云 知ふられ思は通
りていふ事と云々 大抵のりりて依るもそ阜方温定の
事とる也

一 為府存世上来き金を所分難流たりゆくと云は町方米
之物儀は名として流しありと云

一 幕府の平年二月

一 幕上十一札事

一 切支子字のり紙を紙納し通りそ人し云は町中東持を
不在中借店借書と云は未述一平居出替の時分派
入金と云は付言を長は毎平二月流書不月被先上り通
町中各名と云は町中平寄月行事之合ちり被取は是
傍の借借り紙を紙納し方平居被取紙下り云は未述
之人方占紙りちり被取紙を名を紙納し味付り不流法なり
切支子丹宗門の者多しと云は町中自今屋敷内不流地